

自然環境教育研究所報告

発行：創価学園
自然環境教育研究所
TEL 042-345-0011
FAX 042-345-0289

体験を通し、生命や食物を大切に する心を育む！

1. はじめに

札幌創価幼稚園教諭 千代谷 春佳



羊ヶ丘の豊かな自然環境に包まれた札幌創価幼稚園園舎

札幌創価幼稚園では、モットー「つよく たくましく のびのびと」のもと、「明るく丈夫な太陽の子（勇気）」「よく考えて行動する太陽の子（智慧）」「仲良く遊ぶ太陽の子（慈愛）」を教育目標に掲げ、教育活動を展開しています。

札幌創価幼稚園の環境教育は、「世界市民として未来社会に貢献できる人格の形成」を目指し、

1. 身近な自然・環境に興味・関心を持ってかわり、豊かな感性や自然を大切にする心を育む。
2. 直接体験を通して、五感を磨き、探究心・好奇心・思考力・表現力を養う。
3. 身近な動植物の観察や世話を通し、生命や食物を大切にする心を育む。

物を大切にする心を育む。

の3点を掲げ、「自然・環境教育年間計画」をもとに取り組んでいます。

「池田自然広場」や「青空農園」での豊かな自然との触れ合い、動物・昆虫・植物の飼育・観察を通しての気づき、遠足での新しい発見など、園児たちの感性が日々磨かれる環境にあります。また、自然との触れ合いとともに、日常生活の中で、水や食べ物を大切にする心を育てたり、身の回りのゴミを拾うことや、無駄な電気を消すこと、暖房や安全の面からもドアは開けたら閉めること等、くり返し伝え、身につけられるように取り組んでいます。

そうした取り組みを2009年2月の自然環境教育研究所報告通巻27号で報告しました。そこで扱っている「池田自然広場」での取り組みと「青空農園」で



園旗が翻り、かわいい花時計が時を刻む

の取り組みについては、ここでは簡単に触れることにしました。

今回は、それ以外の取り組みとして代表的なもの、「創立者と園児と桜」「戸田先生のふるさと厚田」「防災教育の新たな取り組み」を報告させていただきます。

2. 池田自然広場

四季の自然変化を肌で感じて 自然との共生を学ぶ



池に咲く睡蓮



池田自然広場では、春の訪れを待ちかねたように、雪の間からタンポポやつくし、チューリップの芽が顔を覗かせます。また、池も雪融けとともに変化が現れ、小さな虫が元気に泳ぐ姿が見られるようになります。その動きに年少組もすぐさま目を止め、「何か動いているよ!」といきいきとした表情になります。



「虫やミズもいるよ」と優しく声をかける

園児たちは、草花集めや虫探し等、春の身近な自然を取り入れて遊びを始めます。そして池田自然広場にある小さな橋を通ったり、池を覗いたりします。春の自然広場は園児たちの冒険心をかきたてています。

夏になると花が咲き香ります。そこでは小さな花を手に取り、園児たちは花の香



「何がいるのかな?」—みんなで一緒に探してみよう

りを実感します。池の中では、春よりも活発に動く虫などに大きな関心がわきます。地面に落ちている木の枝を拾い、虫たちから離れた水面にその枝をそーっと打ち付けて、動き回る虫たちの反応を確かめている園児たち。虫たちと仲良く楽しんでいきます。

秋になると池田自然広場では、木々が紅葉したり、池の虫たちの動きにも変化がみられます。

池に浮かぶものを、「なんだろう?」などと互いに考えます。園児たちは頭をひねり意見を出し合います。話し合った後に、池田自然広場に行ってみると、「落ち葉



「何か動いているよ。何だろうね」と互いに話し合う

が浮いているよ」「木の実もあるよ。何の実かな」「虫も浮いているよ」「木の枝もあるよ」などいろいろの声があがりました。

池田自然広場で、園児たちは、四季の変化を感じ取りながら、自然と触れ合い、自然との共生を実感しながら、知恵を出し合い、仲間と触れ合っています。

3. 青空農園

植物の栽培を通して 持続可能な環境教育を実践

青空農園は、園児たちにとって、希望に満ちた、実りの喜びを知ることが出来る場所です。年少組は大好きな年長組のお兄さん、お姉さんに手をつないでもらい、青空農園に行きます。春には「チューリップをお母さんにプレゼントするんだ!」と言いながら、そーっと、優しく球根ごと引き抜きます。

その後、農園には、じゃがいもの種芋植え、きゅうり、トマト、ナス、しそ、ピーマンなどの苗を植えます。



長く大きく育った新鮮なきゅうりを収穫する

「おおきなーれ」と、太陽の子のパワーを送りながら水をあげたり、雑草を抜いたり大切に世話をします。

夏には、大きく育った野菜が園児を迎えます。見たことがないくらい長く伸びたきゅうりや、トゲが鋭いナス、いい香りのするシソの葉や、鮮やかな赤がまぶしいトマトなど、かご一杯に収穫をします。教室に持ち帰ってサラダや浅漬けにして調理したものを、皆でおいしくいただき、収穫の喜びを味わいます。

秋には、春に植えた種芋から、たくましく茎や葉がぐんぐん成長したじゃがいも畑に園児は目を見張ります。園児の背丈くらいに成長した茎や葉は、巨大迷路のようです。「いもほり大会」では、小さな手で力いっぱい土を掘り起こします。「じゃがいも、たくさん掘ったよ!」と、家に持ち帰り、お母さんに調理してもらい、カレーライスやポテトサラダにして、家族と分け合い、楽しく食事をします。



チューリップをお母さんにプレゼントするよ



チューリップを取った後じゃがいもの種芋植えをする



いろいろな野菜に水をやり大きく育てと太陽の子のパワーを送る

やがて作物も枯れ、雪虫も舞う10月には、春に向けて、チューリップの球根を植えます。年少さんの手を優しく引いて、年長さんが青空農園まで連れて行きます。そして、「雪が降っても寒くないように、土のお布団をかけてあげるんだよ」と球根を土に埋めます。チューリップの花が咲く頃は、年長さんは立派な小学1年生に、年少さんは、優しい年長さんになると成長を誓い合います。

4. 創立者と園児と桜

**木を植えることは夢を植えること
平和の心を学び育む**

札幌創価幼稚園には、「父桜」「母桜」など創立者が植樹してくださった桜の木をはじめ、青い屋根の園舎全体を囲むように、44本の桜があります。

園児たちが目にするたくさんの桜の中でも、2009年に新たに「わが子桜」と命名していただいた桜に、とりわけ思いを寄せています。この八重桜は、第1回入園式の折に、創立者に記念植樹していただいたものです。「年々、植樹した桜が大きくなれば、希望がふくらみます。木を植えることは、夢を植えることにつながります」(『新・人間革命』「未来」の章)との創立者のお心は、開園38年を迎える今もなお、園児の心に語りかけるようです。

園児は、「わが子桜」と命名してくださった創立者のお心を胸に刻み、太陽の子として大きく成長していくことを創立者に誓います。

また、年長組では、わが子桜の話とともに、創立者の創作童話「さくらの木」の読み聞かせを行います。戦争を知らない世代の親に育てられた園児たちにとって、「戦争」について知ることは、あまりに



創立者と園児がともに植樹した「王子桜」



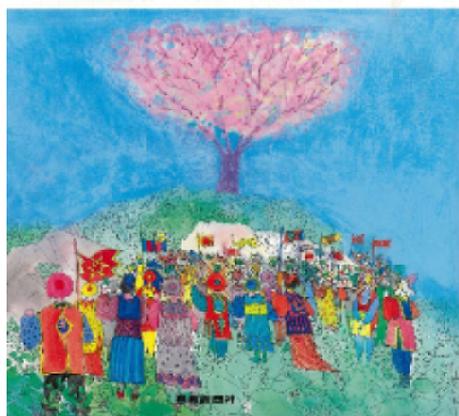
毎年、「わが子桜」の前で記念撮影をして成長を誓います



「父桜」も一人一人の成長を祈っています

さくらの木

山田武彦/文 アシタツシ/イラストレーション



世界中の人たちが仲良く暮らせるようにと願う

も現実離れしたのですが、教師は理解しやすいよう工夫をしながら園児たちに話をします。

絵本「さくらの木」は、園児にとっては、難しい内容ではあるものの、大好きな創立者が書いてくださった本ということで、みんな真剣に聴きます。読み終わると、「戦争はたくさんの方が死んじゃってかわいそう」「苦しいときもがんばったから、きれいに咲いたんだね」など、思い思いの感想を口にします。

絵本「さくらの木」を通して、創立者が、戦争のない平和な世界をつくるために戦われてきたことや、みんなが大成長して、世界中の人たちが仲良く暮らしていけるようにがんばってもらいたいと願われていることなどを伝えています。

絵画活動でも「さくらの木」を導入とし、創立者のお心を胸に刻み、桜の絵を描きます。絵本を通して、創立者とさくらの木に対する思いを強くした園児たちは、たくましい桜、あざやかな桜、優しく咲く桜など、思い思いの桜を描きます。園児たちが描く桜からは、創立者への「世界平和の人材に成長していきます！」との誓いが感じられます。



八重緋寒桜の他いろいろな種類の桜がある

5. 戸田先生のふるさと厚田

創立者のご行動を通して学ぶ

世界平和は身近なところから始まる！

毎年、秋の遠足では、戸田先生のふるさと「厚田」に行きます。創立者池田先生の恩師である戸田先生のことを学ぶため、まず、事前学習で、絵本「戸田先生」を教材として活用し、わかりやすいように紙芝居にしています。

紙芝居では、厚田の大自然で、幼少の戸田先生が生まれたこと、また、創立者が戸田先生に平和貢献への誓いを立てたことを学びます。

そして、厚田の自然を肌で感じながら、戸田先生の生家を



戸田先生の生家の前で「着いたよ。早くおいで」と叫ぶ

生家を

見学。その後、園児たちは、海岸に立ち、「厚田村」を元気いっぱいに歌います。そして、「ぼくたち、わたしたち、創価幼稚園の太陽の子は、大きくなったら、世界平和のために活躍できる人になるため、負けない心の人に成長していきます！池田先生みていてください！」と厚田の海に向かい、創立者への誓いを立てます。

池田先生と戸田先生の師弟を学び、世界平和に貢献するとの思いを深める遠足となります。



日本海の先に広がるアジア・ヨーロッパに向かい「厚田村」を歌う

6. 防災教育の取り組み

自然との共生を目指して

防災・減災を心掛け 身の安全を守る訓練

「生命の尊厳」 を根底において

昨年度、札幌創価幼稚園では、防災教育として、新たな取り組みをスタートしました。

3.11東日本大震災の「釜石の奇跡」に学ぼうと、園児自らが自分の命を守ることができる教育を展開していくため、具体的に4歳5歳の園児たちに、どう防災教育を進めていくべきかと、試行錯誤しながら園全体で取り組みを進めてきました。これまでも、避難訓練等行ってきましたが、いざという時に園児たちが自ら判断し、身の安全を守る行動をとることができるのか、また、その力をつけてあげられているのか、という疑問がありました。そして、今までより、実践的で、実際の災害時に生かしていける取り組みを重視していきました。

まずは、毎月1日を「防災の日」と定め、地震や火事などについて紙芝居などを通して学び、また、実際に震災が起きた時の訓練を行うことにしました。昨年度の新たな取り組みのひとつとして、緊急連絡票というものを作成しました。

園児名、保護者名、連絡先などが記載してあり、



防災センターでの地震体験にも一生懸命に



身を守るために机の下に頭を入れる訓練をする

園児の首にかけることで、避難確認、人数確認ができるようになっていきます。クラス別に束ね、緊急時には、職員室から持ち運びます。

園児が、緊急連絡票の扱い方に慣れるよう、1回目の訓練では、自分で首にかける練習をしました。2回目は自分で防災頭巾をかぶり、その上から、緊急連絡票を首にかける練習。その後、例年行っている避難訓練を行いました。練習の成果がみえ、防災頭巾や緊急連絡票の扱いも随分スムーズにできるようになりました。そして、その約一週間



机など頭を守る物がないときには手などで頭を隠す訓練



避難場所に向かって話をしない、あわてないで移動します



幼稚園内にある虹のトンネルを通過して避難場所へ

後、「びっくり避難訓練」を行いました。その名の通り、実際の災害時と同じように、自由に遊んでいる時間にサイレンが鳴り、地震が起きるという設定で避難訓練を行いました。子どもたちに事前に指導したことは、「机が近くにあるときは、机の下にもぐる」「壁などから離れ、“だんごむし”（体勢）になって、頭を守る」「近くにいる先生の話聞く」ということです。事前に話をしていたものの、急にサイレンがなると、泣き出してしまう園児、恐怖でパニックになってしまう子、慌てて自分のクラスに戻る園児、担任の先生を探す園児等、様々な園児たちの反応がみられました。その一方、学んだことを思い出し、机の下にもぐったり、“だんごむし”の姿勢をとったりする子も多数みられました。全園児が正しい知識を身につけ、自ら判断をし、安全に避難することの難しさを感じるとともに、成果と課題

がみえた取り組みでもありました。また、訓練を実際の緊急事態に生かしていくためには、繰り返し訓練をしていく必要があることも痛感しました。

創立者は、環境提言の中で、「“かけがえない尊厳”を脅かす危機を乗り越えるためには、一人一人が変革の主体者となって行動することが欠かせない」、「『持続可能性』の追求も、(中略)『生命の尊厳』を何よりも大切にしていける社会を築くために、皆で共に行動する挑戦にあらねばならない」と教えていただきました。

これからも、大切な園児の生命、安全を守るため、無事故・安全第一で園生活を送っていけるよう、教職員一丸となって知恵を絞り、挑戦していきたいと思ひます。



避難場所で点呼を取り全員の安全を確認する

7. むすびに

園児たちに幸福の種を植え

自然との共生の中で世界市民を育成



桜の花の香りを確かめるためにそっと枝を下ろす

草木が生い茂り、秋には色あざやかな山々に囲まれ、冬には一面の銀世界となる。そして、長く厳しい冬を越えて、春には一斉に生命の息吹を感じられる北海道。どの季節にも、創立者の深い愛情と励ましを感じます。

自然との共生の中で、世界市民の育成を目指し、この羊ヶ丘の豊かな大自然の中で、大切な幼児期に身近な環境や、生命あるものすべてを大切にすることを育み、豊かな感性を磨いていきます。そのためにも、教師自ら自然の移り変わりを敏感に感じ取り、美しさを表現しながら、「教師自身が最大



「落ち葉があったよ」とみんなで拾い見せ合う

の教育環境」との自覚をもって、全力で園児たちの幸福のため、環境教育に取り組んでまいります。そして、この札幌から「人間教育の大人材となる大樹よ育て！」との思いで、園児たちに愛情いっぱいがかかってまいります。

創立者は、「教育も子育ても、時間のかかる作業です。一生懸命取り組んでも、その結果がすぐに表れないかもしれない。でも、子どもたちに幸福の種を植え、その心を豊かに耕した事実は残ります。この“労苦”は、すべての子どもたちの“宝”として実っていくのです」（「教育の世紀」へ P65）とご指導されています。

大自然に囲まれた三代師弟有縁の地・北海道で、笑顔いっぱいに育つ園児たち。春には小鳥がさえずり桜が咲き、夏には緑の



夏に楽しむプールでの水遊び

の教育環境」との自覚をもって、全力で園児たちの幸福のため、環境教育に取り組んでまいります。そして、この札幌から「人間教育の大人材となる大樹よ育て！」との思いで、園児たちに愛情いっぱいがかかってまいります。



寒さに負けず、雪遊びに熱中する元気いっぱいの園児たち